



## 「保幼小連携・接続期研修会」

6月23日（金）に学校教育課主催事業との連携で「保幼小連携・接続に向けた研修会」として、昨年度もご講演いただいた玉川大学教授 大豆生田啓友先生から「主体的・対話的で深い学びの実践—幼児期から小学校へ—」という演題でご講演いただきました。

講演の内容は、具体的な事例を写真や動画で紹介しながら、保育や小1音楽と国語の授業から学ぶこと、ある園の保育の見直しや子供主体の学校への転換、スタートカリキュラムや小2図工・生活科の実践など、これから栗原市が取り組む保幼小連携・接続の方向性を示唆する貴重なものでした。特に、「主体的とは、その子の自分らしさを尊重すること」「子供は心の安全地帯があると大きく育っていくこと」「今までの当たり前を見直せるかが大きいこと」「保幼小連携は保幼の取組をいかして教育をしていくこと」など、たくさんの学びをいただきました。今後、小学校区ごとの地区協議会の取組の推進に向け大きな力になるものと感じました。講演会の主な感想は下記をご覧ください。



### 【講演会の感想】

- ・子供主体の保育とは思いつつ今までの当たり前が多く残っていたことにハッとした。大豆生田先生の話は、具体的な事例をたくさん出していただいたため、イメージがしやすく、今後の保育に活かせる内容であった。
- ・とても具体的でわかりやすいお話の内容でした。自己肯定感は大人も子供も大事。保育所、幼稚園、小学校、中学校と連携し、将来栗原市を支えてくれるよう、今出来ることから始めていきたいと思っています。
- ・保幼小連携と聞いたときに、どうしても上の学校に合わせるというイメージがあったが、互いに見合い、知っていくことが大切だと感じました。また、困った子ではなく良い所を幼児全体に広げられるよう自分の保育を見直してすぐに活かしていきたいです。
- ・講演を聴きながら教師目線、親目線で子供に対する自身の態度を振り返りました。今までその子らしさをしっかり肯定、受容できていなかったんじゃないか、早く職場に戻り、子供の興味関心あるものに寄り添いたいという気持ちでいっぱいになりました。
- ・幼稚園の環境構成や10の姿を意識した活動、計画が小学校の先生方にも理解していただくことにより、今後の話し合いの場が同じ方向に向かえるような感じがしました。
- ・遊びで終わるのではなく遊びこむということを大切に、子供も保育者も保護者もワクワクできるように、学んだことを今後の保育に活かしていきたいと思っています。

### 【講演会の感想】

- ・「当たり前を変える」という発想の転換が目から鱗であると共に、今までの保育で「もっとこうしてれば」という思いが溢れ出し、申し訳ない気持ちになりました。子供たちにとっては大事な1日であり、良さを最大限に活かすのも先生次第なのだと感じ、この仕事がいかに重要なポジションであるかを改めて確認することができました。
- ・幼小接続に向け、アプローチカリキュラムを見直し、小学校との連携をしていかなければと改めて感じた。見直したカリキュラムのすり合わせも行っていこうと思った。
- ・どうしても悪いところや困っているところにばかり目が行きがちなので、子供たちを肯定的にみることを心掛けていきたいと思いました。一人一人がその子らしく、安全な場所で自分の興味あることを楽しめるようにしていきたいと思いました。
- ・個を理解していかに伸ばすことを考えていかなければならないか。幼児期からも大切にされており、小学校はどこまで育ててきているのか。どこを育てていかなければならないのか、連携して個を育てていかなければならないかを改めて感じました。
- ・主体とは、「その子らしさ」のことであり、それを尊重することが大切ということが分かり、大変勉強になりました。教育現場の様々な場面で、子供の主体性を尊重した支援を進めていくようにします。
- ・子供との信頼関係を築き、学級を一人一人の安全基地にしていくことを意識して、学級作りをしていきたいと思いました。
- ・当たり前を見方を変えて改めて見直すことや、主体性の本来の意味と子供の姿について考えさせられました。自分も本校の先生方も、明日から子供の姿の見とり方が少し変わる気がします。
- ・子供にとって自分らしくいられる場所を作ることや受容的に接することがやはり大切であることが分かった。一人一人の特性を理解し、個に応じた指導をしていくことを今後も意識していきたいと思う。
- ・自分が決めたルールや思った通りにならなければ叱る、教師のエゴを押し付けてしまっているなど反省する機会になり、子供自身が考えていることや好きなことを認めて広げていく努力を、学校で1つずつでも出来るように努力していこうと思いました。
- ・本日の研修会を経て小中連携のみに留まらず、保幼小中の連携を念頭に計画を立てていきたいという思いが強まりました。「子供がワクワク、職員集団がワクワク、保護者もワクワク」という好循環が確立できるような研修、働きかけを進めて参ります
- ・遊びが「遊びこむ」になるためには、教師の腕が必要と聞き、1年生担任として生活経験をさせながら多くのことを学べるよう活動の環境や行い方を考えていかなければならないと改めて感じた。

## 「学級づくりセミナー2023」開催

8月18日（金）の午後2時から若柳総合文化センター（ドリーム・パル）を会場に、幼稚園・小学校・中学校教員を対象に『学校に行けない「からだ」～不登校体験の本質と予防・対応』について講演会を行います。講師は、大変著名な明治大学教授 諸富祥彦先生です。諸富先生は、スクールカウンセラーとして20年以上の活動歴があり、教師のサポート活動などにも取り組まれています。講演の内容は、「今、子供たちのからだに何が起きているのか」「子供が学校に行きたくなる教師とは」などについて、不登校体験の本質と予防・対応についてお話いただきます。

学校訪問の際「ソフトな語り口の中にもたくさんの事例を基に分かりやすくお話しいただけるので、大変勉強になりました」「たくさんの著作があり、これまでの指導に役立たせていただいている先生の話の直接聞けるのが楽しみです」など多くの先生方からお話をいただいたり、校内研修として全職員で参加申し込みいただいたりした学校が多く、主催者としても講演会を心待ちにしているところです。